

科目名	ネットワークⅢB									
科目名(英)										
単位数	10単位		時間数	150時間		担当者	北原 聡・打越 直美			
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・ 情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年									
授業概要	セキュリティ、ワイヤレス、ネットワーク自動化などの企業ネットワークに必要とされる機能を学習して 企業ネットワーク全般の構築と運用ができるようになる									
	iCDタスクコード		DV04.4.1							
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○	○				企業ネットワークで必要とされる機能を説明できる。				
	○	○	○			企業ネットワークの構築ができる。				
	○	○	○			企業ネットワークの運用ができる。				
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社) 1冊ですべてわかるネットワーク運用・保守の基本(SB Creative)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-3	LAN設計モデル					サブネット化の方法を復習すること			
	4-4	ネットワーク管理の全体像								
	5-6	WAN								
	7-7	[運用]構成管理、性能管理								
	8-12	VPN					セキュリティの基本的な事項について復習すること			
	13-13	[運用]ネットワークの運用管理								
	14-15	ネットワークセキュリティの概要								
	16-16	[運用]ネットワーク運用監視								
	17-20	ネットワークデバイスの保護								
	21-21	[運用]ネットワーク監視装置								
	22-26	スイッチドネットワークでの脅威とセキュリティ機能					スイッチで用いるプロトコルを復習すること			
	27-27	[運用]メンテナンス用ネットワーク								
	28-29	ネットワーク認証								
	30-31	ネットワーク認可								
	32-33	ネットワークのアカウントینگ								
	34-34	[運用]ネットワーク障害対応								
	35-37	ワイヤレスネットワークの基礎								
	38-38	[運用]ネットワーク装置のバックアップ								
	39-43	ワイヤレスLANのアーキテクチャ								
	44-46	ワイヤレスLANのセキュリティ								
	47-49	ワイヤレスLANの構築と運用								
	50-50	[運用]パケットキャプチャー								
	51-52	SDNの概要								
	53-55	CiscoのSDNソリューション								
	56-63	ネットワーク構築演習 LAN								

科目名	ネットワーク構築演習B										
科目名(英)											
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		北原 聡・打越 直美		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・ 情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年										
授業概要	イーサネット技術を理解し、ルータやスイッチを組み合わせるネットワークを構築するために必要な設定、動作確認、トラブルシューティングができるようになる										
	iCDタスクコード		DV04.4.1								
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				ルーティング、スイッチングの基本機能、仕組みが説明できる					
	○	○	○			ルーティング、スイッチングに関する設定、動作確認ができる					
	○	○	○			ルーティング、スイッチングに関するトラブルシューティングができる					
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1-2	標準IPv4ACL					標準ACLの基本コマンドを復習				
	3-4	拡張IPv4ACL					拡張ACLの基本コマンドを復習				
	5-6	IPv6ACL									
	7-8	ダイナミックNAT									
	9-10	ダイナミックNAT									
	11-12	PAT					ダイナミックNAT、PATの基本コマンドを復習				
	13-14	スタティックNAT									
	15-16	スタティックNATとPAT					スタティックNAT、PATの基本コマンドを復習				
	17-18	DHCPサーバー									
	19-20	DHCPリレーエージェント									
	21-22	DHCPクライアント					DHCPの基本コマンドを復習				
	23-24	DHCPサーバーの冗長化									
	25-28	BGP									
	29-30	仮想ルーター									
評価方法	(1)実習内容を課題レポートとして提出させる (2)授業の中で単元ごとの授業内評価テストを3回実施する (3)受講状況の評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	演習課題レポート		○		◎		○				40%
	授業内評価テスト		○		◎						40%
	受講状況						◎				20%
履修上の注意	再試験は実施しない										

科目名		クラウド演習						
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	打越 直美・高倉 美哉	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・ 情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年							
授業概要	クラウドの概念、AWS の主要なサービス、料金、セキュリティ、アーキテクチャ、サポートに関する全体像を詳細に説明する。またAWSでITインフラストラクチャを構築するための基礎を説明する。							
	iCDタスクコード		DV04.7.1					
授業形式	講義：△		演習：○		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				クラウドに関する基本用語、仕組みを説明できる。		
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、EFS、RDSの基本用語、仕組みを説明できる。		
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、EFS、RDSの基本的な設定ができる。		
	○	○				AWSのWell-Architectedフレームワークの柱を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	AWS Academy Cloud Foundations / Academy Cloud Architecting AWS認定資格試験テキスト AWS認定 クラウドプラクティショナー(SBクリエイティブ)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	ACF モジュール0：コース紹介						
	2	ACF モジュール1：クラウドのコンセプト						
	3,4	ACF モジュール2：クラウドエコノミクスと請求						
	5	ACF モジュール3：AWS グlobalインフラストラクチャの概要						
	6-8	ACF モジュール4：クラウドのセキュリティ					ワークシートを提出すること	
	9-11	ACF モジュール5：ネットワークとコンテンツ配信						
	12,13	ACF モジュール6：コンピューティング						
	14,15	ACF モジュール7：ストレージ						
	16-19	ACF モジュール8：データベース					ワークシートを提出すること	
	20	ACF モジュール9：クラウドアーキテクチャ						
	21-26	ACF モジュール10：Auto Scalingとモニタリング ACF復習						
	27	ACA モジュール1: AWS Academy Cloud Architecting へようこそ ACA モジュール2: クラウドアーキテクチャの紹介						
	28-30	ACA モジュール3: ストレージレイヤーの追加						
	評価方法	(1)確認テストをモジュール毎に実施 (2)受講状況を評価する (3)定期試験(筆記) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
確認テスト		○	◎				30%	
受講状況					◎		20%	
定期試験(筆記)			◎				50%	
履修上の注意								

科目名	ネットワーク・サーバー構築総合演習									
科目名(英)										
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	久保山 大地			
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・ 情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年									
授業概要	AWS クラウドのベストプラクティスを学習し、AWS で最適な IT ソリューションを設計するプロセスを 検討するのに役立つさまざまな設計パターンを身につける。									
	iCDタスクコード		DV04.2.1、DV04.3.1、DV04.3.2、DV04.4.1、DV04.7.1、DV04.7.2、 DV04.8.1、DV04.8.2、DV04.9.1、DV04.9.2、DV04.11.1							
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				ベストプラクティスに基づいてサービスの選択が行える。				
	○	○				拡張性、信頼性、可用性が高いインフラストラクチャを構築できる。				
	○	○				マイクロサービスとサーバーレスアーキテクチャに関する用語を説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-2	ACA モジュール 3: ストレージレイヤーの追加								
	3-5	ACA モジュール 4: コンピューティングレイヤーの追加								
	6-8	ACA モジュール 5: データベースレイヤーの追加								
	9,10	ACA モジュール 6: ネットワーク環境の構築								
	11,12	ACA モジュール 7: ネットワークの接続								
	13,14	ACA モジュール 8: ユーザーとアプリケーションアクセスの保護								
	15-18	ACA モジュール 9: 伸縮性、高可用性、モニタリング								
	19-21	ACA モジュール 10: アーキテクチャの自動化								
	22,23	ACA モジュール 11: キャッシュ								
	24	ACA モジュール 12: 疎結合アーキテクチャの構築								
	25-27	ACA モジュール 13: マイクロサービスとサーバーレスアーキテクチャ								
	28	ACA モジュール 14: 災害対策の計画								
	29,30	ACA モジュール 15: 認定までのプロセス					確認テストを全て80点以上にすること。ガイド付 きラボを全て完了すること。			
評価方法	(1)複数回確認テストを実施し評価する。(2)複数回ガイド付きラボを実施し評価する。 (3)受講状況を評価する。(4)定期試験(筆記)を実施し評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	確認テスト	○		◎				30%		
	ガイド付きラボ			◎				10%		
	受講状況					◎		10%		
	定期試験(筆記)			◎				50%		
履修上の注意										

科目名	一般教養ⅢB										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		木村 浩昌		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科 3年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース2年										
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」 前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」 テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③ 漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う										
	iCDタスクコード		該当なし								
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。					
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	CAB・GAB対策(その1)									
	2	CAB・GAB対策(その2) 、漢字対策(その1)									
	3	CAB・GAB対策(その3) 、漢字対策(その2)									
	4	CAB・GAB対策(その4) 、漢字対策(その3)									
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)							中間テストの範囲を復習しておくこと		
	6	CAB・GAB対策(その5) 、漢字対策(その5)									
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)									
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)									
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)									
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)									
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)									
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)									
	13	SPI数学分野の対策(その7) 及び SPI数学分野の小テスト							小テストの範囲を復習しておくこと		
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト							小テストの範囲を復習しておくこと		
	15	SPI数学分野の小テスト 及び SPI国語分野の復習、定期試験対策									
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎		◎							55%
	小テスト	◎		◎							25%
	受講状況							◎			20%
履修上の注意											

科目名	ビジネスマナー											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		徳島 欽子			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年											
授業概要	ビジネスシーンに必要な名刺交換、電話応対などの基本的なマナーだけではなく、冠婚葬祭や食事の仕方などのその場に応じたマナーを学ぶ。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○		○		社会人として相応しいビジネスマナーを理解することができる。						
		○		○		社会人として必要な電話応対ができる。						
		○		○		冠婚葬祭のマナー、日常生活でのマナーを理解し実践できる。						
テキスト・教材 参考図書	入社1年目ビジネスマナーの教科書(プレジデント社・Kinoppy)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	訪問のマナー ～好印象を与える自己紹介の仕方					自己紹介ができるよう準備をすること					
	2	～好印象を与える自己紹介の仕方										
	3	基本マナー ～テーブルマナー										
	4	電話応対 ～報連相 ・電話応対の基本・電話の受け方の流れ・かけ方の流れ										
	5	～電話の受け方演習、取次ぎ方演習										
	6	～電話のかけ方の流れ・かけ方演習										
	7	～電話応対テスト					電話応対の流れを確認しておくこと					
	8	～電話応対テスト										
	9	冠婚葬祭 ～慶事のマナー ・贈り物のマナー										
	10	～祝儀不祝儀袋の決まりごと										
	11	～弔事のマナー										
	12	～その他のマナー										
	13	基本マナー ～名刺交換のマナー・席次										
	14	～課題にて復習					全体の復習をしておくこと					
	15	～組織と人間関係 ・総復習										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業中に実技試験を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎				○				55%
	確認テスト	○		○				◎				25%
	受講状況							○				20%
履修上の注意												

科目名	インターネット基礎											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		松嶋 貴志			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年											
授業概要	一般社団法人 全国専門学校情報教育協会主催のインターネット ベーシック ユーザー テスト (iBut) の出題範囲に準拠し、社会人として必要なインターネット社会における知識を統括的に学び、iBut試験合格を目指す。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				iBut試験で合格点を取得する。						
テキスト・教材 参考図書	「iBut」インターネットベーシックユーザーテスト テキスト 一般社団法人 全国専門学校情報教育協会											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	インターネットの基礎1										
	2	インターネットの基礎2					要点をまとめておくこと					
	3	インターネットでの被害1										
	4	インターネットでの被害2					要点をまとめておくこと					
	5	インターネット関連の法規1										
	6	インターネット関連の法規2					要点をまとめておくこと					
	7	インターネット利用者のモラル1										
	8	インターネット利用者のモラル2					要点をまとめておくこと					
	9	インターネットのしくみ1										
	10	インターネットのしくみ2					要点をまとめておくこと					
	11	コンピュータウイルス1										
	12	コンピュータウイルス2					要点をまとめておくこと					
	13	セキュリティ1										
	14	セキュリティ2					要点をまとめておくこと					
	15	演習										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、検定試験を定期試験とみなす。(2)課題またはレポートを数回実施する。 (3)受講状況を評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	◎		○								50%
	課題・レポート	◎		○								30%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意	再試験は実施しない。PCを利用する。											

科目名	Webアプリケーション演習B											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		香川 文紀			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年											
授業概要	PHP言語を活用したWebアプリケーション開発の基礎の修得を目指す。演習を通じて動作確認しながらWebアプリケーションの仕組みを理解する。また、適宜追加の演習問題を実施して、知識の定着を図る。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる						
		○				PDOクラスを利用してデータベースを操作することができる						
		○				実用的なWebアプリケーションの開発ができるようになる						
テキスト・教材 参考図書	基礎からのPHP(ソフトバンク クリエイティブ(株))											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	CHAPTER11 phpMyAdminによるMySQL操作の基本										
	2	CHAPTER12 SQL文の基本					環境の構築を完了させること					
	3-4	CHAPTER13 PHPでMySQLを利用する										
	5-8	CHAPTER14 PHPのクラス					演習課題を終了させること					
	9-10	CHAPTER15 電子メールの送信					演習課題を終了させること					
	11-12	CHAPTER16 ファイルとディレクトリの操作										
	13-15	CHAPTER17 グラフィックの簡単な利用					演習課題を終了させること					
	16-18	CHAPTER18 Cookieを使おう					演習課題を終了させること					
	19-20	CHAPTER19 セッションって何？					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	21-22	CHAPTER20 Webアプリケーションに対する攻撃を知ろう					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	23-24	CHAPTER21 簡易画像掲示板を作ってみよう										
	25-27	CHAPTER22 画像掲示板を完成しよう					演習課題を終了させること					
	28-30	総合演習										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)各内容での演習課題を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								50%
	課題演習	○		◎				○				40%
	受講状況							◎				10%
履修上の注意	・WEBアプリケーション演習Aを履修している、または同等の知識を有すること ・USBメモリを持参すること											

科目名		技術英語／技術文書						
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	田中 雅彦・川原 ユウジ	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年							
授業概要	・ITエンジニア向けの英語ドキュメントを読む際に必要な、基礎的なリーディングの知識とテクニックを習得する。 ・IT技術者が、顧客の要望や課題を把握し、技術的に裏打ちされた最適な提案ができるようになる ・クライアントに伝わる文章表現力を磨くことができる							
	iCDタスクコード		該当なし					
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				ITエンジニア向け英語ドキュメントの特徴をつかんで、内容を説明することができる。		
	○					ITエンジニア向け英単語の意味を理解し、使用することができる		
	○					自分のライティングスキルをチェックし、ビジネスに通用する文書を書けるようになる		
		○				伝わる作業手順書、障害報告書、社外メールを書くことができる		
テキスト・教材 参考図書	TOEICテスト書きこみノート 文法編(学研教育出版) 技術者のためのテクニカルライティング入門講座(翔泳社)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1-2	英語：英語の基本になるパーツ―品詞(名詞；代名詞 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	3-4	英語：英語の基本になるパーツ―品詞(名詞；代名詞 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	5-6	英語：パーツの並べ方―文(単語の役割と文；文の種類 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	7-8	英語：パーツの並べ方―文(単語の役割と文；文の種類 ほか)					中間テストの準備をしておくこと	
	9-10	中間テスト/英語：時間を表すルール―時制(現在形と現在進行形；過去形と現在完了形 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	11-12	英語：時間を表すルール―時制(現在形と現在進行形；過去形と現在完了形 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	13-15	英語：時間を表すルール―時制(現在形と現在進行形；過去形と現在完了形 ほか)					定期試験の準備をしておくこと	
	16	文書：第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識						
	17-18	文書：第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック					授業内容に係るレポート作成および提出	
	19-20	文書：第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック						
	21-22	文書：第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～					授業内容に係るレポート作成および提出	
	23-24	文書：第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取扱説明書(作業手順書)						
	25-26	文書：第6章 実践編 提案書					授業内容に係るレポート作成および提出	
	27-28	文書：第7章 実践編 障害報告書						
	29-30	文書：第8章 実践編 社外メール文					授業内容に係るレポート作成および提出	
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)単元毎に課題・レポートを実施する。 (3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
定期試験		◎	○				50%	
課題・レポート		○	○				40%	
受講状況					○		10%	
履修上の注意								

科目名	情報処理試験対策秋対策B									
科目名(英)										
単位数	3単位		時間数		50時間		担当者		川野 啓祐	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年・ 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年									
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。				
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1～12	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
	13～25	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○		◎				60%		
	確認テスト	○		◎				20%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意	再試験は実施しない									

科目名	情報処理試験対策春対策B									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		24時間		担当者		川野 啓祐・姫野 マリ	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年									
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。				
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1～6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
	7～12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
定期試験(筆記)		○	◎				60%			
確認テスト		○	◎				20%			
受講状況					◎		20%			
履修上の注意										